野田建築会会報　2013 春号

NAA NEWSLETTER 13 SPRING

VOL.29

NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION
The Alumni Association of Science University of Tokyo since 1998.

同窓会特集

会報では、歴代研究室の同窓会や同期会などご連絡のあった催事の報告を掲載しています。今期は同窓会の開催が多くあったので、まとめて巻頭に掲載いたしました。

2012“でんろく会”（野村衣笠研究室同窓会）

衣笠　秀行（きぬがさ　ひでゆき）
1985 年 (昭和 60 年) 卒　野村研
2008 年 (平成 20 年) 東京理科大学理工学部建築学科教授

２年に一度の”でんろく会”が 2012 年 11 月 17 日土曜日の５時から 62 名の出席者をもって開催されました。

野村先生から開会のご挨拶を頂き、若井達夫さん（S49 年卒）の乾杯で会が始まりました。

“でんろく会”は、野村研究室と衣笠研究室を卒業した約 450 名の OB で構成される同窓会組織です。ちなみに、でんろく会の名称は、野村研設立当初「でんろく豆」を好物にしていた学生さん（楯邦夫さん S48 年卒）がいて、研究室でいつもみんなでポリポリと食べていたからだそうです。

前回の“でんろく会”は 2010 年 11 月で、今回は 2011 年 3 月の東日本大震災を挟んでの開催でした。会の途中のスピーチでは、皆様から地震の際の貴重な体験談や、地震後の混乱そして復興におけるご苦労を力強く、時にユーモラスにお話しを頂きました。

また、時代を反映してか、また、転職を経験した方々が意外と多く、転職の成功談や転職にあたっての注意事項・教訓など興味深いお話も聞けました。

会の締めくくりは、記念写真撮影と菊地利武さん（S45 卒）による閉会のご挨拶です。今年は例年より１時間は時間を早めたこともあり２次会でもゆっくり再会を楽しむことが出来ました。“でんろく会”は今後も２年おき（西暦偶数年）に開催される予定です。

次回は 2014 年 11 月。卒業生の皆様、次回是非ご参加下さい。

ご挨拶される野村先生

ご参加の奥様と野村先生
（左は佐藤和英さん）

出席者の皆様

奥田研究室の OB 会

高安　重一（たかやす　しげかず）
1989 年 (平成元年) 卒　奥田研

代々木公園で奥田研究室の OB 会が開かれました。

昨年の秋（10/20）、場所は代々木公園でアウトドアでの決行でした。もちろん雨の時の為にお店をキープしておきましたが、当日は最高の天気で公園内ではいろんな場所で三々五々ピクニックが行われていて、音楽を奏でている人達の演奏も聞こえてくる中、リラックスした時間が過ごせました。

今回は昼間の OB 会となりましたので、ご家族連れでの参加もしやすく、奥様とお子様、赤ちゃんも参加の賑やかな集まりになりました。もちろん奥田先生も奥様とご参加です。

外での OB 会は初めてでしたが、時間の制限もなく遅れてくることも可能で、お酒も持ち寄りで費用も抑えられるなど、良いことずくめに感じました。

一方で多少の準備が必要なので参考までに・・・写真にもありますが、地面には梱包用のプチプチシートをロールで用意して（これが感触がいい！）、段ボール箱のテーブルにテーブルクロスがかけられています。会場に到着した人には可愛らしい座布団が一人一つずつ支給されて、それぞれが好きな場所で話しをしたり、子供はお絵かきを始めたりしています。ドリンクコーナーでは立ち話で盛り上がっています。

大きな木の下で暖かい日差しの中で、OB の結婚の報告などもあり、暗くなるまで幸せな時間が続きました。

建築学科第１期同窓会

斎藤　喬（さいとう　たかし）
1970（昭和 45）年卒　宮内研

あなたは、ご存じでしたか。東京理科大学野田校舎に理工学部が出来る前に、１期だけ工学部があったことを！

我々は、その卒業生です。

昭和 41 年 4 月、東京理科大学野田校舎（現在の理工学部）工学部建築学科に 77 人が入学しました。初めて運河駅を降りて、さて学校は何処か？大学というからには、それ相応の立派なキャンパスがあるのだろうと期待していたのですが、運河陸橋から見渡してもそれらしき所は何処にも有りません。

なんと、現在の１号館がポツリと運河沿いに建っているだけでした。私の卒業した高校でも、もっとましでした。５学科 400 人強の入学式は、特別な会場が用意されることもなく、１号館の１階の食堂でわびしく行われました。

来年、金町校舎がオープンするそうですが、その立派さとは雲泥の差です。

我々は、団塊の世代であり、当時、世の中は高度経済成長のまっただ中、70 年安保の政治時代で、ある意味騒然とした時代でした。「造反有理」という言葉がはやった時代です。

入学の翌年から野田校舎が工学部から理工学部になり、我々も理工学部生になれ、と言われた時、「ならば何故、はじめから理工学部としなかったのか」と学校に反抗ました。大したことではないかも知れませんが、学校側の不条理に、造反する意気があり、我々は、そのまま工学部生として卒業しました。

先輩がいないので、自分たちの手で、学生自治をやり、クラブ活動を立ち上げ、大学祭も１年生の時から手探りで行いました。勉強に関しては何を学んだか、あまり覚えが有りませんが（これは、私の個人的なことで、まじめに修学した人もいます）、それなりに、充実した日々であったと思っています。

こんな学生生活を送った我々が、卒業後４回目の同窓会を 20 何年ぶりに昨年 10 月 27 日、熱海で行い、27 名が参加しました。もう 65 歳の高齢者集団です。さぞかし、加齢臭が酷かっただろうと思いますが、当人達は、なつかしさに、つい時間の経つのも忘れて、楽しい一時を過ごしました。

高度経済成長期に卒業し、建設業は不況知らずという言葉を信じて疑わなかった時代から、低成長経済に転換する中、建設不況に至る過程で、参加者は、色々な経験をしてきたようです。その過程で、同窓会というものが個人の助けにはならなかったかも知れませんが、ほのぼのとした思いを共有できる時間をもつことは、今の時代にとって、大切なことだと思います。

理科大を卒業した人は、横の繋がりが少ないと良く言われますが、孤立を楽しむのではなく、また利害だけにとらわれない、同窓会のようなほのぼのとした機会を今後も大切にしていきたいと思っています。

北村春幸教授が理工学部長に就任

建築学科の北村春幸教授（写真）が 2012 年 10 月に理工学部長に就任されました。

理工学部 10 学科の教員による投票により選出されたもので、建築学科から理工学部長がでるのは川越理工学部長（昭和 55 年から２年間）以来のことです。

助教紹介

「経験から考える快適な人の動き」

丹羽　由佳理（にわ　ゆかり）

1979 年　愛知県生まれ
2004 年　名古屋市立大学卒業
2007 年　東京大学大学院博士課程修了 , 博士 (環境学)
2007 ～ 2010 年
　柏の葉アーバンデザインセンター　ディレクター , 東京大学客員共同研究員
2010 年　早稲田大学助手
2011 年　東京理科大学 都市デザイン研究室助教

私の略歴は、野田キャンパスから程近い東京大学柏キャンパスで博士号（環境学）を取得した後「柏の葉アーバンデザインセンター UDCK」でディレクターとして 3 年間まちづくりの現場に携わりました。

様々な都市に出向き、地域が抱える課題を調査したり、新たな都市空間の提案などを行ってきました。平成 23 年 4 月に現・東京理科大学に着任し、今年は 2 年目になりました。初年度は、2050 年に於ける首都圏の未来像を提示する「東京 2050//12 の都市ヴィジョン展」に研究室で参画し、地震被災時の帰宅行動等の実証分析などに着手しました。

一方プライベートでは、昨年 8 月に長男を出産しました。産後は、0 歳児を預かってくれる保育園が見つからず不安を感じながらも、学科の先生や助教の皆様、研究室の学生達にも支えられて、無事 1 月に職場復帰出来ました（本当に感謝しています）。

子育てをしながらの研究はなかなか思うようにいきませんが、その代わりに様々な発見もあります。

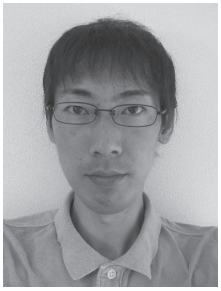
これまでは自由に都市を移動出来ていたのが、今は保育園用の荷物と仕事用のパソコンを持ち、ベビーカーを押しての移動。子供の体重をあわせると約 15kg、とても重くて大変です。

ベビーカー歩行は小さな段差にもぶつかり、天候によっては外出が困難になります。ふと街を観察してみると、足の弱い高齢者など手押し車や杖をつく人が大勢いました。

これまで気がつかなかった自分が恥ずかしいですが、多くの人が様々な負荷を抱えながら歩行していることに気がつきました。

これからは幅広い視点を持って、人々の快適な動きとは何か、又、日常的な散策路もユニバーサルアクセシビリティという視点から再度考えてみたいと思っています。

災害について想像する



肥田　剛典（ひだ　たけのり）

1980 年　群馬県富岡市生まれ
2003 年　信州大学工学部社会開発工学科建築コース卒業
2005 年　千葉大学大学院自然科学研究科建築専攻 修士課程修了
2005 ～ 2007 年　国土交通省関東地方整備局
2010 年　京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士後期課程修了
2010 ～ 2011 年　京都大学防災研究所研究員
2011 年 ～ 永野研究室助教

2011 年東北地方太平洋沖地震による被害を目の当たりにし、私は衝撃を受けました。津波の被害状況は言葉を失うほどのものでしたが、東京湾沿岸部の埋立地で発生した液状化被害に対しては、それとは種類の異なる、言わば自省にも似た感情を抱きました。

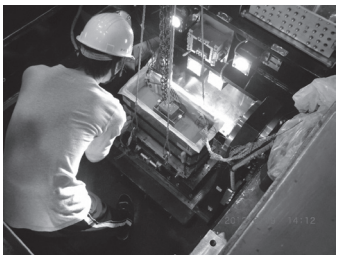
というのも、私はこれまで液状化に関する研究に従事していながら、ここまで広範囲かつ大規模の液状化被害が発生し得ることを、十分に想像出来ていたとは言い難かったからです。

私は、博士課程の学生として京都大学に所属していた頃から現在に至るまで、液状化地盤における建物の耐震性に関する研究を行っています。この研究では、地盤と建物の小型模型に地震波を作用させて実験を行います。模型は 1/50 サイズで、地盤の深さは約 20cm です。

しかし、地盤は深い位置ほど強度や剛性が高くなる性質を持っており、深さ 20cm 程度の模型では、実際の地盤の深部における応力状態を再現することは出来ません。

そこでこの研究では、「遠心力載荷実験装置」を利用します。この装置では、1/50 サイズの地盤模型に重力の 50 倍（！）の遠心力を作用させることで、模型地盤を実大スケールの地盤の応力状態に近づけることが出来ます。この研究の目的は、小型模型を使った振動実験をもとに、実際の建物の地震時挙動について検討することです。しかし、この研究の成果を本当の意味で防災に役立てるためには、それだけでは不十分です。模型実験から 3.11 のような都市規模の激甚災害を想像し、それに対する備えや事後の復旧への対策について考えることで、初めて被害の軽減に資することが出来るのではないでしょうか。

3.11 以来、私は、災害時の危機回避を考える上で最も必要な力は、想像力であると考えるようになりました。今後発生する災害を想像し、安全な建物や街を作るにはどうすれば良いかということについて、学生さん達と一緒に考えて行きたいと思っています。



OB と語る会（就職ガイダンス）

ガイダンスの様子（五十嵐会長挨拶）

懇親会の様子

はじめに、キッコーマンビジネスサービスの小峯克彦様からお話を頂きました。キッコーマンというと、しょうゆなどの調味料の会社というイメージがあります。建築学科出身者にどのような活躍の場があるのかを小峯さんご自身のお仕事の内容を通して、ご紹介いただきました。具体的には、ファシリティマネジメント業務について、キッコーマン総合病院、野田詰棟（倉庫）、本社などの企画、設計・施工管理などに携わった内容をお話しいただきました。更には、会社やファシリティマネジメント部に求められる人物像について、お話しいただきました。

次に、セキスイハイム株式会社の唯根亮様からご講演いただきました。初めに、住宅メーカがどのような業界であるかを、建設会社などとの比較を通して、わかりやすく説明していただきました。同時に住宅メーカに求められる人材像についてもご紹介いただきました。

更には、セキスイハイムの会社紹介をしていただきました。また、唯根さんご自身が最初に携わった住宅のエピソードをまとめた動画や、ご自身で設計されたご自宅の様子などを披露していただきました。とても分かりやすく学生たちに仕事のやりがいなどが伝わったのではないかと思います。

最後に、清水建設の馬場宗康様からご説明頂きました。まず、馬場さんがこれまでに携わられた東京ディズニーシーの現場の事例を通して、施工の仕事についてわかりやすくご説明頂きました。

続いて、清水建設の会社概要をご紹介いただきました。また、ゼネコンの仕事の仕組みについて説明していただき、特に施工管理分野での仕事の流れについて詳しくお話しいただきました。更に、施工管理に求められる人材などについて紹介していただきました。

今回は、通常の OB と語る会とは異なり、就職ガイダンスという形で実施したため、どの程度参加者が集まるか読めない部分がありました。しかし、蓋を開けてみると 6 ～ 70 名程度と、会場の後ろの方では立ち見が何人か出るほどの盛況ぶりでした。懇親会も多くの学生が参加し、大変良い交流の時間が持てたと考えています。

（文責：小林謙介　2001 年卒、2006 年博士課程修了）

小峰　克彦（こみね　かつひこ）

1980 年 千葉県流山市生まれ
2004 年 東京理科大学大学院理工学研究科（衣笠研究室）修了
2004 年 キッコーマンビジネスサービス株式会社入社
2010 年より現在
社有物件の建築物の設計、維持、管理に従事

信　条　必ず結果を出す

唯根　亮（ただね　りょう）

1979 年 東京都葛飾区生まれ
2003 年 東京理科大学理工学部建築学科（衣笠研究室）修了
2003 年 セキスイハイム株式会社入社
東京 23 区を中心に住宅営業職に従事
2009 年より現所属
東京セキスイハイム株式会社
総務・人事統括部
新卒採用を中心に人事業務全般に携わる (採用計画の策定、選考フロー設計、セミナープログラムの計画運営、面接官など)
年間 300 名の学生と面接、80 名程の新卒採用を行っている

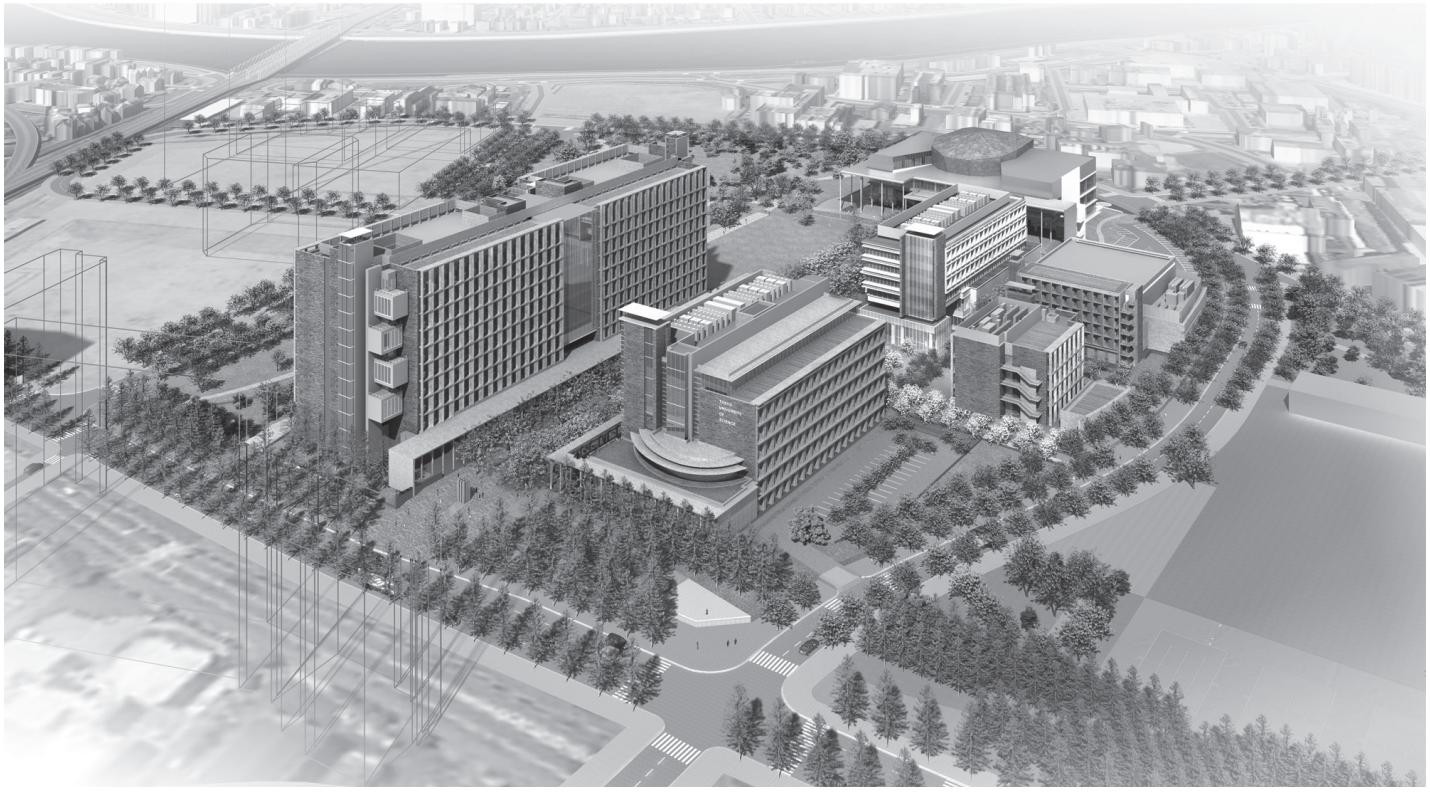
信　条　仕事を楽しむことは、人生を楽しむ近道

馬場　宗康（ばば　むねやす）

1962 年 埼玉県和光市生まれ
1989 年 東京理科大学大学院理工学研究科（若松研究室）修了
1989 年 清水建設株式会社入社
現在　清水建設株式会社千葉支店建築 1 部
現在まで担当した建物
・ フォーシーズンホテル椿山荘新築工事
・ 成田国際空港第一旅客ターミナル南ウイング増改築工事
・ 東京ディズニーシー建設所　など

信　条　勇気・気迫・執念

◆理科大葛飾新キャンパスが間もなく開設



平成 25 年 4 月開設を目指し、葛飾新キャンパスを建設中です。新キャンパスは、「学園パーク型キャンパス」と「環境に優しいキャンパス」をコンセプトにしており、区の公園に囲まれ、フェンスのない開放的な敷地に建てられています。

建物は、研究室棟や講義棟、体育館、図書館・集会場棟など６棟あり、ゼネコン３社（竹中工務店、鹿島建設、大成建設）で請負い、間もなく完成です。

幸いなことに、3 社共、理科大 OB（いずれも理工学部建築学科卒）が作業所長を担当しており、意気投合した雰囲気のなかで、施工調整が進められました。（85 卒信達さん、86 卒今井さん、88 卒吉田さん）

私の担当は、図書館・集会場棟で、キャンパスモールの正面奥、池に浮かぶように佇む特徴的な外観の建物です。1,2 階は図書館、3,4 階が 600 人収容の集会場で、1 階には葛飾区の科学技術センターも併設されています。

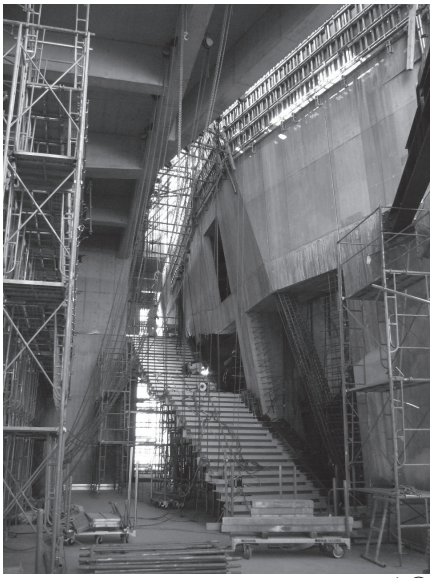
随所に吹抜けた空間があり、特に集会場は、屋根・外壁・内壁そしてスラブ底までが、3 次元の立体で構成され、大きな多面体球のような形状に包まれています。したがって、工事的には、３次元軸での寸法管理が要求され、正直、今までで一番の難工事を経験したと感じています。

それでは、特徴的な“現場”を紹介します。

写真①

写真①は、集会場の躯体時期です。3 次元方向に延びる RC 柱を軸とし、多面体の壁（構造体）を構築していきました。

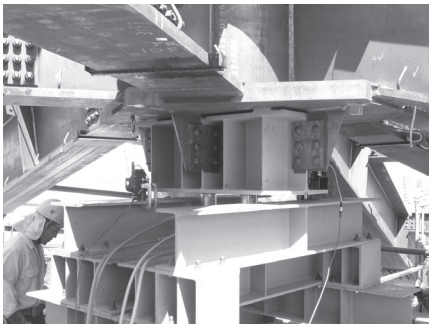
写真②は、集会場 4 階席にアプローチする跳出し構造の鉄骨階段を設置しているところです。緩やかな螺旋形状のため、固定端になる側の RC 壁を後施工とすることで、設置精度管理の施工性を向上させることが出来ました。



写真②

写真③は、集会場屋根鉄骨のジャッキダウン状況です。

屋根の頂点に仮設支柱で受けていた約 60t の負担荷重を、専用治具で計測しながら、慎重に解放していく作業で、本構造体でのメインイベントであり、計画通りの測定値で、無事完了できました。



写真③

①～③は、ほんの 1 例で、写真では現場の臨場感が伝わらないのが残念ですが、これらの写真に限らず、どの作業工程も、緊張感の中で 1 ステップ毎確実に消化して、無事故で建物が完成できました。

最後に、内装・外観を紹介します。

写真④は、集会場内部です。壁面は木ルーバーで、デザインされ、600 席の椅子は、講義用のメモ台付です。

写真④

写真⑤は、図書館内部です。受付コーナーは約 10m 吹抜けていて、開放感のある空間です。雛壇に配列された本棚の天端は机が備付けてあり、総蔵書数は、10 万冊可能です。

写真⑤

写真⑥は、南（電車から見える側）からの外観。また、写真⑦は、通用口側からの外観で、どの面からも特徴のある形状をしています。

写真⑥

写真⑦

粟飯原　功一（あいばら　こういち）

1963 年　千葉県生まれ
1985 年　東京理科大学理工学部建築学科（井口研究室）卒業
同年、㈱竹中工務店に入社
入社以降、施工管理業務。
担当物件は、現在 22 件目。

葛飾キャンパス現場見学会が開催されました

衣笠　秀行（きぬがさ ひでゆき）
1985 年（昭和 60 年）卒

NAA の主催する現場見学会が 2012 年 12 月 13 日に開催されました。今回は建設の進む東京理科大学葛飾キャンパス新築工事の現場見学です。工事期間は 2011 年 2 月から 2013 年の 2 月までの 2 年間、2013 年 4 月からは工学部・理学部・基礎工学部のキャンパスとして使用されます。現場見学を行った 2012 年 12 月は、翌年春の完成に向けて急ピッチで工事が進められていました。

キャンパスにはＪＲ金町駅から地元の暖かみのある商店街を通り抜けて徒歩約 10 分ほどで到着します。見学会に参加したのは、大学院生 14 名、学部生８名、それに、ＯＢ・教員を含めた 28 名です。学生の皆さんは見学会の開催ポスターを見ての参加です。

葛飾キャンパス新築工事には、大成建設、竹中工務店、鹿島建設が参加しており、下図に示すように葛飾キャンパスには、図書館・集会場の入る図書館棟、研究室が入る AC 棟、食堂や事務室が入る D 棟、実験施設が入る F・F’ 棟、講義棟となる B 棟、などで構成されています。このうち、大成建設は　D 棟、F・F’ 棟、B 棟、竹中工務店は図書館棟、鹿島建設は AC 棟をそれぞれ建設しています。今回の見学対象は大成建設の D 棟および、F・F’ 棟工事です。

今回お世話になった大成建設の工事長（現場責任者）は進達靖さんで、理工学部建築学科を S60 年にご卒業です。ちなみに、竹中工務店の所長は粟飯原功一さん、鹿島建設の所長は今井康弘さんで、ともに理工学部 建築学科の卒業生です。その他、設計を担当した日建設計を含め多くの本学卒業生の皆様がこの工事に関係しているそうです。ちなみに、現場を案内頂いた大成建設の吉田長人さん、石川正人さんも本学のＯＢ（理工学部建築学科卒）でした。現場の説明などお二方には大変お世話になりました。

現場見学は進達工事長みずから案内をして頂く形で進められ、見学後の質問にもこころよく応じて頂き、現場のやり甲斐やおもしろさについてたくさんのお話を頂きました。現場の活気ある雰囲気とともに、社会の一線で活躍する卒業生の皆さんを頼もしく感じた一日でした。

案内図

見学会に参加した皆さん

東武野田線「運河駅」改修工事について

山崎 晃弘 (やまざき あきひろ)
1976 年 (昭和 51 年) 卒

工事概要

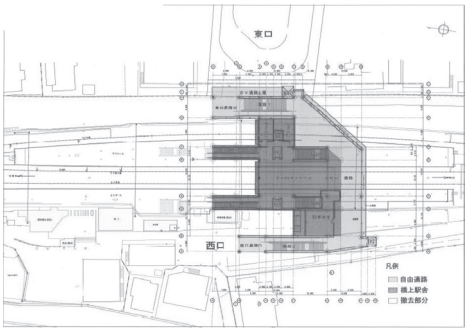
流山市の北端に位置し、1911 年 (明治 44 年) に開業した運河駅は、明治時代に水運の要衝であり、かつ歴史的遺産価値のある利根運河に名が由来します。

現在では、東京理科大学野田キャンパスや宗教法人霊波乃光の最寄駅として、様々な層の方に利用されています。

本工事は、現在問題となっている東側へのアクセスの不便さを解消し、同時にバリアフリー化を重点的に進めるため、利根運河という景観資源ならびに東京理科大学キャンパスとしての地域性を活かした都市整備基盤（運河駅東口周辺市街地整備事業）と合せた駅周辺の利便性および安全性の向上を目指し、駅東口と西口を結ぶ自由通路の設置および駅舎橋上化を行なうものです。

なお、本工事は東武鉄道株式会社と締結した工事施工協定に基づき施工し、国における社会資本整備総合計画のうち都市再生整備計画（旧まちづくり交付金）を活用して進めるものです。

※都市再生整備計画（旧まちづくり交付金）とは　地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的に 2004 年度に創設された制度です。事業実施にあたっては「都市再生整備計画」を作成し、国土交通大臣より採択され交付金が交付されています。その交付対象地区のひとつとして、「運河周辺地区」が選定されました。



2F コンコース平面図

事業名　運河駅施設整備事業
建築主　流山市・東武鉄道株式会社
総事業費　19 億 7000 万円
施工期間　2011 年 12 月～ 2013 年 3 月
施設規模
自由通路：床面積 777 ㎡／エスカレーター 2 基 (東西各 1 基) ・エレベーター 2 基 (東西各 1 基)
橋上駅舎：床面積 876 ㎡／エスカレーター 2 基 (東西各 1 基) ・エレベーター 2 基 (東西各 1 基)

完成予想パース

（図面とパース・図面は流山市 HP から転載しました）

NAA からのお知らせ

【会費納入のお願い】

野田建築会 (NAA) では、会則に則って平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の普通会員の年会費 3,000 円を徴収しています。会費は会報の発行、OB と語る会の開催、NAA サイトの運営、見学会の開催、NAA 賞の授与などの活動費用として有効に使われています。

NAA の発展と活動の活性化を図るために、本年度会費をぜひ、納入いただきますようお願いいたします。つきましては会費納入のための郵便振替用紙を同封いたします。

振込みの時には、封筒の宛名ラベルに記載されている ID 番号を通信欄に記入願います。専用の郵便振替用紙がない方も、ページ右下にある郵便振替口座番号から納付することができます。(メルマガ登録については連絡欄に記入してください)。

【NAA サイトのお知らせ】

NAA では情報交換ツールとして NAA サイト (http://www.rikadaikenchiku.com) を開設しています。このサイトで直接登録するか、専用の郵便振替用紙のメルマガの購読希望を「する」に○印をしていただければ、大学の動向をお知らせするメールマガジン (NAA メルマガ) が届くようになります。ぜひご利用ください。

【編集後記】

表紙の写真は、現在の東武野田線運河駅 (西口) です。見覚えのある風景だと思います。ですが、この風景はもうすぐ変わってしまいます。現在、今年春からの利用を目指して新駅舎の建設が進んでいるのです。詳しくは紹介記事にありますが、新駅舎は 2 階建てで改札は 2 階になり、東口と西口の 2 方向に出られるようになります。改札などは少し柏寄りになりますが、東口ができれば学生にとってはかなり便利になるでしょう。東武野田線も一部新型車両が導入されるようですし、久しぶりに大学へ行って新しいアクセスを体験してみてはいかがでしょう。　（涌井　1985 年卒）

野田建築会　会報　13 春号
2013 年 3 月 18 日
編集：会報部会
発行：東京理科大学野田建築会
〒 278-8510 千葉県野田市山崎 2641
郵便振替　口座番号　00130-9-27644　東京理科大学野田建築会